

是彼員会

# 満洲国立建国大学と戦後、日中 国交正常化と善隣国際交流事業

村田嘉明  
(会員)



寧夏団善隣交流会JST修了式(2019年11月)

2022年9月は日中国交正常化50年です。日本の新聞・テレビ局は毎年、8月15日前後に「終戦特集」に記事、放送番組を組みます。1945年8月は日中戦争の終戦で今年は77年目を迎えました。私は1945年1月に満洲国新京特別市(現在の中国吉林省長春市)で出生し、今年年齢77歳です。中国東北部が私の第二の故郷です。

8月20日、大阪ABCテレビ「テレメンタリーアンテナ2022」を見ました。この番組は、2年前には大阪朝日放送報道局記者の丘文奈さんが国際善隣協会会員の故・村田治雄さん(建大6期)を取りました。番組の映像では1972年9月の日中国交正常化で田中角栄と周恩来が人民大会堂で握手した場面が印象的でした。今回の放送では今泉茂さん(建大6期)と中国人建大生の在学中から終戦、引揚後、日中国交正常化後の交流を「朋友の橋を架けた青年たち」のタイトルで放送されました。日中国交正常化から8年後、1980年に日本側建大訪中団が北京空港で出迎えた中国人建大生側の赤い横断幕「歓喜嶺会、熱烈歓迎」が印象的でした。小林金三さん(3期)が訪中し、中国人の陳抗さんと再会、当時、中国外交部にいた陳抗さんが1972年の日中国交正常化後、札幌の中国領事館開設に尽力した状況も写りました。番組では建大での学生生活

中角栄首相、大平正芳外相、二階堂進官房長官が訪中した50年前は、日本国内は「日中友好」ムードが最高潮でしたが現在、日中関係は最悪の状態です。政府間外交は厳しい局面ですが民間の善隣国際交流・日中友好の活動を続けたいと思います。

国際善隣協会は一般社団法人として公益性のある公開講演会・公開フォーラムを開催してきましたが、2020年以降は新型コロナ感染環境下で対面



寧夏団筑波大学医学部系(2019年11月)

式の講演会の実施ができない状態です。ウイズコロナ下で対面式講演会の実施を望むところです。協会「定款」4条第2項に「善隣諸国の政治、経済、社会、文化及び歴史に関する講演会・シンポジウム・研究会の開催」と記述があり、協会は第3条の目的（中国及びその他の善隣諸国との相互理解を深め、親善関係の増進（中略）会員相互の研鑽、親睦を図る）を達成するため第4条の事業を行うと規定されています。第4条第4項では「善隣諸国における環境問題等への取り組みを支援する事業」が規定されています。私が10年以上所属する協会・常任委員会「国際交流委員会」では過去に中国内寧夏回族自治区」「遼寧省葫蘆島」「黒竜江省富裕県」「北京市内」「西安市内」などの植林事業を実施し、現地にも行きました。今般、すでに実施済みの山西省太原市盆口郷提子頭村の2回目の植林申請を



湖北中医団北里大学（2020年1月）

◆文中1980年建大訪中団の記述で「歓喜嶺会、熱烈歓迎」歓喜嶺は建大のあった場所。文中、村田治雄さん（建大6期）は97歳で2022年8月に逝去。旧大同大街の坂を上りつめた場所「歓喜嶺」

まれるところです。

◆文中1980年建大訪中団の記述で「歓喜嶺会、熱烈歓迎」歓喜嶺は建大のあった場所。文中、村田治雄さん（建大6期）は97歳で2022年8月に逝去。旧大同大街の坂を上りつめた場所「歓喜嶺」

外務省宛（日中友好会館経由）に提出しました。国際善隣協会の環境事業「植林」は協会定款に規定された主要事業と認識しています。世界的な地

球温暖化で、空気中の二酸化炭素を減らすため「植林」の果たす役割は大きいです。日本に帰化し陸軍大学校、陸

軍經理学校教授を務めた劉雨田の息子。独学で洋画を学び、文展や東京大正博覧会に出品した。第11回文展（1917年）の出品作は皇室の買上げになつた。大正初年は日本と旧関東州を行き来していた

①五族協和の魁『満洲國立満洲建国大學』源元一郎著、2021年4月刊、鳥影社（建大の満洲の大地での農作業と劉榮楓作「望郷」が重なり、作者の母国、中国東北部の望郷の念が感ぜられる）。

②『官展にみる近代美術 東京・ソウル・台北・長春』（図録）。2014年5月、府中市美術館で開催され劉榮楓作「望郷」が展示された。

府中市美術館で開催の「官展にみる近代美術展」劉榮楓作「望郷」を鑑賞。同時に136「満州の収穫」出展の136「満州の収穫」は星野画廊蔵。「望郷」は国際善隣協会5階会議室に展示さ

れています。

善隣会員の皆様に5階会議室の大型絵画（100号）「望郷」について説明します。

◆筆者は2014年5月、と故・長野宏太郎氏（建大7期・国際善隣学院長）の記述があります。

とが確認できる。第2回展では美術委員を務め、無鑑査出品だった。大連や日本国内でしばしば個展を開催した。

#### 参考文献



劉榮楓作（100号）「望郷」

\*絵画の作者プロフィールは『官展にみる近代美術』268頁から引用した。（2014年当時、善隣協会事務局との交渉にあたった志賀学芸員）